

## 令和4年度(2022年度) 市立札幌病院一括公表

## 1 インシデント

レベル	件数		説明
	3年度	4年度	
レベル0	2,121件 (55.7%)	2,113件 (53.3%)	前もって気づいた事例(例:採血管が不足しているのに気がついた等)
レベル1	1,232件 (32.4%)	1,272件 (32.1%)	実害がなかった事例(例:薬の与薬時間が遅れた等)
レベル2	453件 (11.9%)	581件 (14.6%)	確認のための検査は行ったが、処置や治療を行なわなかった事例(例:転倒で打撲した箇所のレントゲン検査を行った等)
計	3,806件 (100%)	3,966件 (100%)	

## 2 アクシデント

レベル	件数		事例概要 ※レベル3b以上
	3年度	4年度	
レベル3a	120件 (89.6%)	101件 (91.8%)	○簡単な治療や処置を要した事例(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与等)
レベル3b	12件 (9.0%)	8件 (7.3%)	○濃厚な処置や治療を要した事例(バイタルサイン*1の高度変化、人工呼吸器の装着、入院日数の延長、外来患者の入院、手術等)  (事例の概要:過失なし) ①胃管*2挿入時誤って肺に入ったことにより気胸*3を発症し、胸腔ドレーン*4挿入が必要となった ②病室で転倒し、大腿骨頸部骨折を来し手術が必要となった ③心臓カテーテル検査*5時に腎動脈*6を損傷し、塞栓術*7が必要になった ④病室で転倒し、硬膜下血腫*8を来し手術が必要となった ⑤病棟トイレで転倒し、人工股関節周囲骨折*9を来し手術が必要となった ⑥病室で転倒し、胸椎*10椎体骨折を来し入院期間が延長となった ⑦病棟浴室で転倒し、胸椎椎体骨折を来し手術が必要となった  (事例の概要:過失あり) ⑧乳房を切除後に再建のため挿入していた組織拡張器*11を嚢腫*12と誤認し穿刺したため、組織拡張器交換のための再手術となった  (主な再発防止の取り組み) ・嚢腫診断時は乳房非再建症例であることをカルテおよび患者に確認し、穿刺を行う
レベル	件数		説明
	3年度	4年度	
レベル4	1件 (0.7%)	1件 (0.9%)	○障害が残った事例 (事例の概要:過失なし) ・病室で転倒し、外傷性くも膜下出血、急性硬膜下血腫が発症し意識障害を来した
レベル5	1件 (0.7%)	0件 (0%)	○死亡となった事例(原疾患の自然経過によるものを除く)
計	134件 (100%)	110件 (100%)	

- \*<sup>1</sup>バイタルサイン（生命徴候）：脈拍、呼吸、体温、血圧などのこと
- \*<sup>2</sup>胃管：鼻あるいは口から胃に挿入して使用するチューブ
- \*<sup>3</sup>気胸：肺から空気がもれて、肺が小さくなった状態のこと
- \*<sup>4</sup>胸腔ドレーン：肺と胸壁の間に挿入するチューブのこと
- \*<sup>5</sup>心臓カテーテル検査：足の付け根の動脈・静脈、あるいは腕の動脈から、心臓の各部屋や血管（冠動脈）に細く柔らかい管（カテーテル）を入れ、その中の圧力を測定したり、造影剤を使って心臓の各部屋の大きさ、筋肉・弁の動き、冠動脈が狭くなっているかどうかなどをみたり、不整脈の原因は何かなどを詳しく調べる検査のこと
- \*<sup>6</sup>腎動脈：腎臓に血液を供給する動脈
- \*<sup>7</sup>塞栓術：経皮的に動脈内に挿入したカテーテル（細い管）を通じて、病変に関与する動脈を人工的に閉塞させる手術のこと
- \*<sup>8</sup>硬膜外血種：脳を覆う硬膜という膜と頭蓋骨との隙間に血液が貯留した状態のこと
- \*<sup>9</sup>人工股関節周囲骨折：人工股関節の周囲に骨折が生じること
- \*<sup>10</sup>胸椎：頸椎と腰椎の間にあり、脊椎の中央を構成する部分
- \*<sup>11</sup>組織拡張器：乳房切除後の再建を目的に、乳房欠損部の皮膚を少しずつ伸ばすために、乳房欠損部の筋肉の下に挿入する器具
- \*<sup>12</sup>囊腫：良性腫瘍の一種。腺管の出口がふさがれて袋のようになり、中に多量の液体がたまったもの

【レベル1～5 インシデント・アクシデント 種類別割合】

